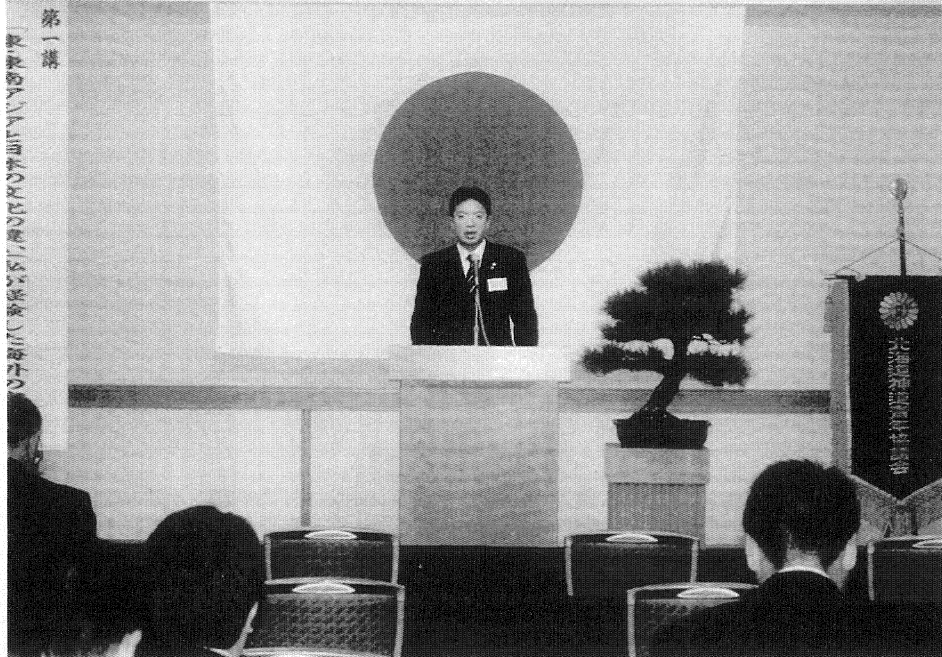


道神青

第40号

北海道
神道青年協議会
平成19年11月30日

平成十九年度 北海道神道青年協議会 研修会



開講式にて挨拶をする大野会長

平成十九年度

北海道神道青年協議会 研修会

平成十九年十月二十九日、三十日の両日、雄大な樽前山と恵み豊かな太平洋の海に抱かれた胆振苫小牧の地、日高青年神職会と胆振青年神職会の共催で平成十九年度北海道神道青年協議会研修会が開催されました。

隣接するとはいえず、両青神会の御苦勞を思い、深く感謝し身を引締め研修に臨みました。『共存共栄への道』く近隣諸国に対する認識を深めアジア発展への道を模索するべくと主題を掲げ、日本と密接に関係する近隣諸国との現状と今後のありかたについて学びました。

開講式の後、第一講「東・東南アジアと日本文化の違い（私が経験した海外の実情）」と題し、出光興産北海道製油所副所長鈴木孝俊先生より、日本と海外での実情の違いをお話し戴きました。現地の経済・治安・モラル等、実体験を基に例を挙げて御説明され、その内容は私達の常識では計れない、大変な苦勞であったことを想像させました。その中で、人と人との信頼関係、国、人種を越えた絆こそ文化の異なる国での最も大切なものである事をお教え戴きました。

続いて第二講、演題を「今を清めるー心の美学を世界へー」とし、映画監督の花堂純次先生より御講演を戴きました。本年、日韓合同で映画を制作され、実話を基にしたその内容は国を越えての人間のありかたを示す指標として、先生自ら関係者にお会いし、交流する事により完成しました。人間味溢れる先生の語り口で、撮影時の韓国スタッフとの交流について楽しくお話し下さいました。

翌日の第三講では、主題を「靖國問題を問い直す十の視点」とし、宗教ジャーナリストの斎藤吉久先生に御講演戴きました。靖國問題、それに伴った政教分離についての現状を詳しく解説され、深く思いを馳せる必要がある大御心についても見解をお話し戴きました。

全ての研修会の日程を終えた時、「共存共栄の道」の指し示すものはただ一つではなく、時代、立場、心、様々な要因で幾重にも交差し合い、未来に向かっていく上での大きな指針になるのではと感じました。

十勝青年神職会

帯廣神社 権禰宣 佐々木 昌和

北海道神社庁長杯争奪道神青協スポーツ大会

去る平成十九年十月三日、道神

青協恒例スポーツ大会が開催された。役員会に於いて、昨年行われた野球や体育館を貸切ったの運動大会等様々な案が出されたが、協議を重ねた結果、本年は種目をボウリング一種目、会場をデイノス

ポウルノルベサでの開催となった。当日、午後三時より開会式が始まり、大野会長の挨拶の後、始球式が行われ、大会の幕が開かれた。ゲームは一人三ゲームずつ行い、その結果によって一単位会を二チームとする「団体の部」と「個人の部」で表彰される形式で行われた。

会場は新しい施設ということもあり、映像による最新の派手な演出が白熱した試合をより一層盛り立てた。毎年新しい会員が増え、青年会として若い力が期待されたが、結果は「個人の部」優勝は井上聡先輩、準優勝が丸井芳明先輩と例年のように両先輩に圧倒された。又、「団体の部」でも丸井先輩を筆頭とする宗谷青年神職会が昨年

に続き連覇を達成した。

スポーツ大会終了後、会場の厚



意によりバスで移動し「おおい北海道」にて懇親会が行われた。

懇親会では札幌諏訪神社宮司・道神青協OB会 北方会長様にも御臨

席賜り、御挨拶を頂戴した。会場では表彰式も行われ、広大な土地

を有する北海道において中々お会いできない諸先輩や会員と杯を交

わしながら語り合い、懇親を深め、道神青協の結束をより強固なもの

とした。

北海道神道青年協議会 理事待遇
厚別神社 楠宜 三橋 厚友

ボウリングの結果

☆団体の部

優勝 宗谷青年神職会

準優勝 日高青年神職会

☆個人の部

優勝 井上聡

準優勝 丸井芳明

3位 藤川伸生

4位 中村文彦

5位 佐久間則勝

6位 鎌田寛記

7位 坪山尚弘

8位 堀田智彦

9位 手塚裕警

10位 照井幸央

20位 中島大輔

30位 赤澤隆志

40位 菅原一

50位 阿部高久

B賞 鎌田耕作

B賞 松崎胤彦

☆レイン賞

1R 會田史男

2R 井上聡

3R 枝廣晴基

4R 加藤剛

5R 鎌田寛記

6R 北方宏和

7R 佐久間則勝

8R 椎山賢司

9R 武田守英

10R 田湯直宜

11R 坪山尚弘

12R 照井幸央

13R 中島徹

14R 中村文彦

15R 藤川伸生

☆特別賞

▼ハイスコア賞

224点 井上聡

▼最多ストライク賞

19回 井上聡

▼最多スピア賞

14回 中島淨晴

▼最多スプリット賞

7回 中村文彦

▼最多ゲーター賞

13回 鎌田耕作



準優勝の丸井先輩と大野会長

平成十九年度

神青協夏期セミナー

期日 平成十九年八月二十七(月)

二十八日(火)

場所 神社本庁・防衛省・靖國神社
参加総数 百三十八名

主題 「国家主権を考える」

「国防と領土問題の観点から」

第一講 「尖閣諸島を含む南方の
防衛ラインの現状に関して」

講師 平松 茂雄 先生

(元 防衛庁防衛研究所研究室長)

第二講 「海の安全保障」

講師 山内 敏秀 先生

(元 一等海佐・元 防衛大学校園
理論教育室教授)

第三講 「国防とは…竹島問題と
対朝鮮半島防衛に関して」

講師 濱口 和久 先生

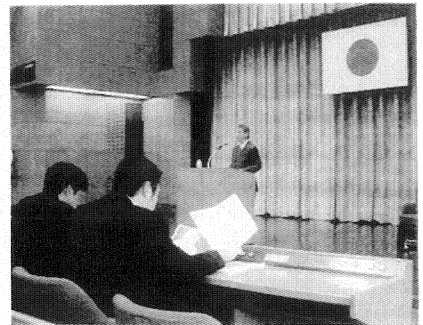
(日本政策研究センター研究員)

第四講 防衛省見学研修

【防衛省内く市ヶ谷記念館・厚
生棟・広報展示室等々】

講師 井上先生(防衛省広報官)

その後、靖國神社にて正式参拝。
レポート作成、提出。



第二講 山内先生の御講演

国防というモノが全く機能して
いない我が国。それをいい事に武
力侵入や不法侵入を繰り返す特定
アジアの国々。完全武装した国を
相手に丸腰で外交に挑むのは、も
う限界ではないのか？憲法九条の
改正と「抑止力」を持たなければ、
竹島も、対馬も、沖ノ鳥島も、日
本海という名称も全て失うような
気がしてならない。

そうなるらまた、根室沖でロシ
アに銃撃された事件と同様の事が
日本海で起こるようになるのでは
ないか？ただでさえ日本海沿岸で
は拉致問題が山積みだといふの
に…。

改めて危機感だけが高まったセ
ミナーであった。

北海道神道青年協議会 副会長

彌彦神社 禰宜 中村 文彦

☆お知らせ☆

去る七月十六日、新潟県上

中越沖を震源に発生した「平

成十九年新潟県中越沖地震」

で被災された新潟県内の各神

社に対し、ブルーシート(15

枚)を支援物資として神道青

年全国協議会を通じ、被災神

社対策本部の新潟県神社庁へ

送付致しました。

被災されました各神社関係

者の皆様をはじめ、被災地域

全ての皆様に慎んでお見舞い

を申し上げます。

北海道神道青年協議会 事務局

北海道神道青年協議会 各単位会紹介

十勝青年神職会

会長 赤澤 一 (芽室神社 宮司) 会員数 17名



会長挨拶・単位会PR

北海道神道青年協議会 大野会長の母体単位会、十勝青年神職会です。

当会の所在する十勝の大地は、雄大な日高山脈を望み、その懐には豊かな自然、多くの動植物が育まれています。三方を山岳、一方が海に面する閉ざされた地域でありながらも、十勝川、帯広川、札内川といった恵豊かな大河が流れ、その下流域には清らかな水が湧き、夏は鱒、秋は鮭が産卵の為に群れをなして遡上してきます。春夏秋冬の美しい四季の移り変わりに彩られながら、種々多様な農作物が収穫され、山の幸、海の幸に潤され、それらの恵は十勝住民はもとより、北海道、更には日本全国に向けて出荷されております。酪農業も盛んであり、良質な乳牛から搾乳された牛乳は、チーズやヨーグルト、ソフトクリーム等に加工されます。

美味しい食べ物、美味しい空気、うまい人との絆、「うまい」がどこにでも転がっている土地、それが十勝です。十勝に息づく産土神に導かれ、当青神会は笑いあり、涙あり、友情ありの大自然ドラマをいつも演じています。

会員同士力を合わせれば何でも出来る、その意気込みを常に持ちつつ、日々神明奉仕に勤しむ毎日。会員家族の交流を深める親睦交流会、十勝管外の同志神職と飲み、食い、語る管外研修旅行。更には多くの分野にわたる基礎知識、一般教養を深める教養研修会、十勝の秋の味覚を堪能し尽くし飲み明かす観楓会など挙げればきりがありません。

今の時代に青年神職として為すべき事とは何か、郷土の為に自分を奮い立たせるにはどうすればよいか。多くの問題に直面しながらも、我々十勝青年神職会は邁進する所存であります。今後とも郷土の礎を築いていただいた先輩方、関係各位、全ての方々の言葉、思いを受け止めつつ一歩一歩着実に前に進んで行きたいと考えております。今後とも皆様には御指導御鞭撻のほどお願い致したく、宜しくお願い申し上げます。

単位会独自の活動

当会原動力の最たるものは、会員同士が互いを思いやり、強い信頼感と仲間意識で結ばれている事です。それを反映してか、十勝青年神職会会報『ときわぎ』は、会の活動内容のみに留まらず、会員個人の日常生活での出来事や、皆に向けて発信したい強い思い、時にはお笑いの要素を含んだ内容となっています。又、会を卒業された先輩のお話を掲載させていただく事により、今とは異なる当時の雰囲気を感じられ、後進の会員にとっては貴重な資料となっています。

当会では、毎年管外研修旅行を催しており、様々な研修に参加して研鑽に励み、会員同士懇親を深めております。その際、他単位会との懇親を目的として交流を行っており、互いの立場での近況報告、今後に向けての指針などを話し合っております。地域も変われば人も変わり、同じ北海道でも様々な問題を抱えていることを知り、それをどう解決し発展させていくか、見識を深めるべく欠かすことの出来ない事業となっています。

また、神道関係団体だけではなく、一般の講師を招き、他業種の人々とも交流を深めることにより、毎日の神明奉仕、そして氏子崇敬者との接し方にも深みとゆとりが生じ、一人の神職、人間としてよりよい御奉仕につながっています。

今後も積極的な人と人との交流を大切にし、常に広い視野を以て神明奉仕に勤しみ、日本、そして郷土、斯界の行く末を見守り力を尽くしつつ、途切れることなく活動することを硬く決意するものであります。

胆振青年神職会 会長 奈良 泰房 (室蘭八幡宮 権禰宜) 会員数 14名



会長挨拶・単位会PR

当会は胆振管内(室蘭市・苫小牧市・伊達市・登別市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町・白老町・安平町・厚真町・むかわ町)の各市町に鎮座する神社に奉職する青年神職会です。

本年度は日高青年神職会の方々と共に道神青協の研修会を担当させていただきましたが、御蔭をもちまして成功裡に収める事が出来ました。

茲に皆様方の御協力に対し、心より厚く御礼を申し上げます。

単位会独自の活動

毎年、厚真町に於いて農家の方に御協力を仰ぎつつ稲作研修を行っており、収穫された初穂は伊勢神宮崇敬会及び管内各本務社に奉献させて頂いております。

☆昨年度の主な活動内容☆

- | | | |
|-------|-----|------------------------|
| 平成18年 | 4月 | 定例総会 |
| | 5月 | 稲作研修(田植え) |
| | 6月 | 道神青協研修会参加 |
| | 10月 | 稲作研修(稲刈り)・道神青協スポーツ大会参加 |
| 平成19年 | 2月 | 道神青新春研修会参加 |

空知支部神職青年会 会長 井上 篤志 (赤平神社 禰宜) 会員数 12名



会長挨拶・単位会PR

今年度より私が空知支部神職青年会会長に就任させていただきました。

現在会員数は12名ですが、年間行事として教化活動や研修会を通じ会員各位との融和と情報の交換を図っており、空知各社諸先輩方に教を戴きながら、氏子の皆様に対して誠心誠意の御奉仕を尽力していく所存でございます。

昨今は、凶悪な事件、食への不安、政党の混乱等で社会不安が一層広がっていく中、我々は神道人としての国家の安定の一助となるべく日夜努力しなければなりません。

我が祖国日本国は、天地悠久の大道としての歴史や文化を足蹴にして他の文化に侵食されたおぞましい国家に成り下がってしまっています。「どうかしなければいかん・・・。」と某知事も言っていますが、考えるよりも先に一手を打たなければなりません。我々神道人として手を拱いている暇はありません。先輩諸兄の皆さんと共に受け継がれて行く伝統や文化を守っていくことこそが、このおぞましい社会に対する唯一の対抗手段と考えうるのです。我々空知の青年神職会として自らのスキルアップと若手の養成の場として担っていく事は意義的な部分でかなり大きく、今後の活動でも皆様の御協力を賜りながら、一段と氏子の皆様に愛される鎮守の森の守人として成長し、氏神様の安寧と各社先輩諸兄の皆様の御健康をご祈念し、挨拶と会のPRに代えさせていただきたいと思っております。

単位会独自の活動

研修会、研修旅行(隔年)、青年神職会主催の祝う会を開催しております。

又、空知支部青年神職会会報『ゆうだすき』を年1回発行しております。平成18年度までに27号を数え、先輩諸兄の活動等が伺える貴重な資料になっております。

網走神道青年会

会長 中島 淨晴 (網走神社 禰宜) 会員数 10名



会長挨拶・単位会PR

今年度より2年間、図らずも会長の席をお預かりすることとなりまして、その責務の重大さに身の引き締まる思いであります。浅学非才の身ではございますが、誠心誠意努力を傾注してまいり所存でございますので、御指導御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、当会では今後の会員数の減少を鑑み、網走神道青年会独自の諸活動に於いては規模を縮小し、網走支部の活動に対しバックアップする体制を整えました。その一環として7月4日に北海道神社庁研修所主催の祭式研修会が、網走支部との共催という形で行われました。

単位会独自の活動

- ・『網走神青会通信』を本年度より年1回発行。
内容は事業活動報告、研修会参加報告、会員の時報等です。
- ・8月7日には上川神道青年会のお取り計らいにより、旭川市内に於いて親睦交流会を設けて戴きました。
他の地域に於ける神社視察並びに青年神職の親睦交流会は、今後も実施する予定であります。



紋別神道青年会

会長 照井 幸央 (遠軽神社 禰宜) 会員数 3名



会長挨拶・単位会PR

当会は20年前、先輩諸兄の篤い志の下、少人数ながらも自己研鑽・資質の向上を目的に設立されました。現在、会員数が3名と大変少なく、単位会独自の事業等は行っておりませんが、会員相互の親睦を深めると共に、道神青協主催の研修会やスポーツ大会等の交流会をはじめ、神青協行事や支部の諸行事などにも積極的に参加しております。それを基本方針に今後も活動して参りたく存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

宗谷青年神職会

会長 坪山 尚弘 (礼文巖島神社 宮司) 会員数 5名



会長挨拶・単位会PR

当会は会員数5名と小さな単位会です。
単独の活動は少ないのですが、会員相互の親睦を図ると共に、道神青協各研修会・スポーツ大会の参加や神青協諸行事(中央研修会・夏期セミナー等)等にも積極的に参加をしており、日々の神明奉仕に生かすべく研鑽を深めております。
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

釧路管内神社青年会 会長 菅野 剛 (鳥取神社 権禰宜) 会員数 5名



会長挨拶・単位会PR

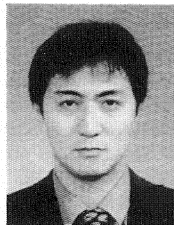
当会は、釧路市・白糠町・釧路町・標茶町・弟子屈町の各市町村に鎮座する神社に奉職する青年神職により組織されております。各神社奉務神職の高齢化に加え、青年神職の著しい減少という現状を抱えており、現在会員数は5名と少なく、会運営には大変厳しい状況ではありますが、会員相互の研鑽と親睦を深めるとともに、道神青協への協力と事業への積極的参加という基本方針の下に、社務の合間を縫って少ない機会を生かした活動を心がけております。

単位会独自の活動

☆本年度の主な活動内容☆

- 平成19年 5月 会員交流花見会 (釧路支部共催)
 9月 釧路支部 神宮大麻頒布始奉告祭 参加
 11月 神社庁第6区地区研修会 参加
 平成20年 2月 建国記念奉祝パレード・祝日国旗掲揚宣伝活動 (催行予定)

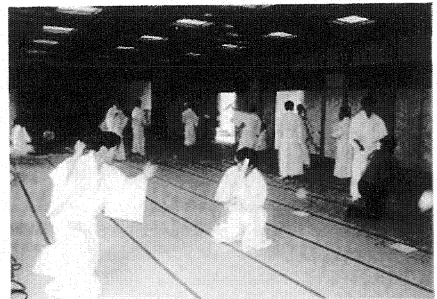
渡島神道青年会 会長 水嶋 恵嗣 (三嶋神社 宮司) 会員数 19名



会長挨拶・単位会PR

当会は、北海道神社庁道南支部内の神社に奉職する青年神職に、神社協会・単立神社それぞれの青年神職も加わり活動しております。

我々は、道南神職の必修である松前神楽の技術の向上と、多くの方々にその文化を伝えるべく活動に励んでおります。



松前神楽研修

単位会独自の活動

☆主な年間の活動内容☆

- 5月 松前神楽研修
 道南神職必修である松前神楽をしっかりと継承していく為、先輩神職に講師を仰ぎ、毎年二日間にわたり実技研修し、各祭典において御神前に御奉納しております。
- 11月 七五三施設慰問・松前神楽披露
 毎年七五三の時期に、神道教化の一環として、幼稚園・管内施設に於いて健やかなる成長を祈念して道南に古くから伝わる松前神楽を披露しております。初めて見る子も多く、食い入るような眼差しでお神楽を見ている姿が印象的です。中でも「獅子舞」の時には一番の盛り上がりとなり、子供達、先生達にも大変喜ばれております。
- 3月 道南神職大懇親会
 例年約50名の道南神職が集まり、親睦を深めるべく、盛大に催される年に一度の大懇親会です。先輩神職の方々と交流を深め、御指導戴き、一日も早く一人前の神職となるべく努力しております。

後志青年神職会 会長 後藤 隆弘 (豊足神社 禰宜) 会員数 10名



会長挨拶・単位会PR

当会は昭和24年に設立され、「会員相互の研鑽と親睦を計り、それに伴う事業を遂行し、北海道神道青年協議会の事業に積極的に参加し、協力する。」という基本方針のもと活動しております。又、後志管内に於いて組織されている後志松前神楽保存会や小樽松前神楽保存会と協調し、松前神楽公演会等にも多数の会員が参加し、雅楽研修を積極的に行っております。平成21年には道神青協と共に設立60周年を迎える今、ますますの活発な活動と会員個々の研鑽がより一層の会の発展と斯界の興隆につながる事と信じ、活動の充実に励んで参りたいと思います。

単位会独自の活動

☆本年の主な活動状況☆

- 4月 後志青年神職会定例総会 (小樽市 住吉神社社務所)
並びに慰労会・激励会 (小樽市内)
- 4月 家族レクリエーション (余市町) ~余市 宇宙記念館
・ニッカウキスキー工場見学後、バーベキュー開催~
- 10月 神宮大麻仕分け作業及び後志支部神宮大麻
・暦頒布始奉告祭の齋員奉仕 (積丹町 美國神社)
- 10月 祭式研修会 (共和町 小沢神社社務所)
- 11月 視察研修旅行 (空知・札幌方面)



家族レクリエーション (一昨年)

~栗山天満宮 (栗山町)・札幌祖霊神社 (札幌市)・錦山天満宮 (江別市) を参拝~
学習会「蝦夷地開拓について学ぶ」 (札幌市 北海道開拓記念館)
忘年会 (札幌市 すすきの)

☆後志松前神楽保存会活動状況☆

- 4月 伊勢神宮展 (札幌市 三越デパート)
- 10月 松前神楽小樽ブロック合同公演 (小樽市 小樽稲荷神社社務所)



視察研修旅行
(栗山天満宮にて)

☆後志雅友会活動状況☆

- 5月 第56回 北海道神社庁後志支部神社関係者大会
(京極町 公民館)
- 10月 全道雅楽合同公演会 (北斗市)

根室神道青年会 会長 前田 穰 (金刀比羅神社 禰宜) 会員数 2名



会長挨拶・単位会PR

当会は、根室管内 (根室市・中標津町・別海町・標津町・羅臼町) の各市町に鎮座する神社に奉職する青年神職の会です。

現在、会員数は2名と小さな単位会ではありますが、日本本土最東端の地域から主に北方領土早期返還に関し発信していけたらと思います。又、それを単位会の基本方針に、道神青協や支部の事業にも積極的に参加をして参りたいと思います。宜しくお願ひ致します。

※今回掲載できなかった単位会につきましては、次号掲載する予定です。

神道青年全国協議会 事務頒布品

神社一筆箋

☆『祈り』

- 体裁 横8・5センチ 縦18・2センチ
- ①しめなわ ②絵馬 ③玉串
- 3種類を10冊づつ 計30冊1組
- 表紙・内紙ともカラー刷り
- 表紙裏に①②③の解説付き

☆『ご遷宮』

- 30冊1組
- 表紙・内紙とも上品な2色刷り
- 表紙裏に遷宮の解説付き

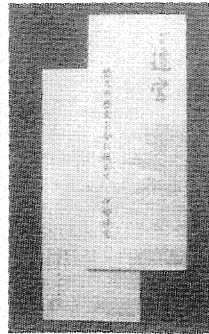
1組 (30冊入) 頒価 3,500円 (送料別)

【ご注文・お問合せ】

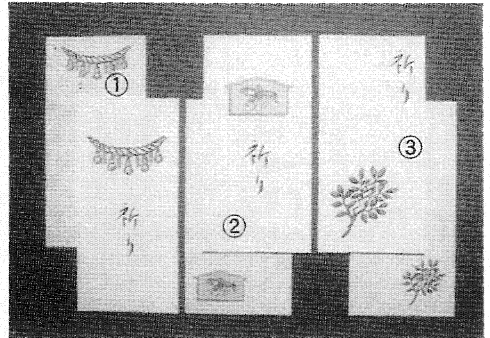
神道青年全国協議会 総務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目1番2号 本社本庁内
 電話：03-3379-8011
 FAX：03-3379-8266
<http://www.shinseikyoe.net>

〔ご遷宮〕

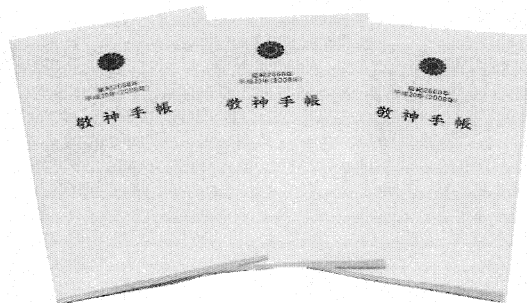


〔祈り(左より、しめ縄、絵馬、玉串)〕



北海道神道青年協議会

『敬神手帳』の御案内



本年も皆様にお申し込み戴きました「敬神手帳」でございますが、事務局に若干の在庫がございます。ご希望されます方は事務局まで御連絡願います。

■頒布価格

一冊 一〇〇円

(一〇部単位でお申し込み下さい)

※送料は実費負担願います。

今後の予定

平成十九年度

北海道神道青年協議会

新春研修会

期 日 平成二十年二月二十七日

(水・先負)

会 場 北海道神社庁 研修室

講 師 川 上 淳 先生

(札幌大学 文化学部 准教授)

演 題 「千島・北方領土の歴史

開催目的

平成二十一年に当会創立六十周年を迎えるにあたり、神道青年の先達が繰り返し行ってきた北方領土返還運動を引き継ぎ、問題を風化させる事無く、四島一括返還を柱とするこの運動を国民挙って展開する意識の啓発に努める為、今一度『北方領土問題』を見つめ直し、又、会員一同この問題に関する知識をより一層深めるべく、北海道神社庁刊行の「北方領土の神社」編集委員を務められた川上淳先生をお招きし、御講演を戴きます。

尚、申込み及び詳細等につきましては、後日事務局より御案内致します。

平成十九年度

神道青年全国協議会

中央研修会

期 日 平成二十年三月四日

(火・負)

～五日(水・仏滅)

主 催 神道青年全国協議会

主 管 神青協関東地区

(協力) 神青協一都七県協議会

担 当 千葉県神道青年会

会 場 ホテルニューオータニ幕張

(研修会場・宿泊場所)

参加費 一名 二万二千元

(研修費・宿泊費・

懇親会費等含む)

右の通り平成十九年度神道青年全国協議会中央研修会が開催されます。

尚、例年中央研修会に併せ行っており、研修旅行ですが、道内各地から多くの会員が参加し易いように、現在、東京を集合地に調整をしております。詳細等につきましては、後日神道青協事務局より研修会の御案内と共にお知らせ致しますので、多数の参加申込みをお待ち申し上げます。

道神青協

ホームページ

道神青協では、昨年度より公式ホームページを立ち上げ、広く青年会の活動を広報し、また、一般の閲覧者の方にも役立つ情報を掲載するなどして、インターネットを通じた教化活動を行っております。

現在は掲載内容に一部編集中の箇所がございますが、随時更新をし、また、徐々にコンテンツを増やして、多くの皆様にご閲覧戴き、有効にご利用戴けるホームページ運営を目指す所存でございます。

是非、より多くの皆様にご閲覧戴けますようお願い致します。

■北海道神道青年協議会

公式ホームページ

<http://www.doshinsei.jp/>

編集後記

先ずもって道神青通信第四十号発行にあたり、お忙しい貴重な時間を割いて御寄稿戴きました役員・会員の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。御蔭様で何とか無事に発行することが出来ました。

過去に一度、単体会で通信の編集を行った事はありますが、慣れないもので、お見苦しい所多々あるかと存じますがご容赦下さいます様お願い申し上げます。

(中島)

題字『道神青』について

本通信は、平成四年二月一日創刊にあたり、当時の中野尹亮北海道神社庁々長に御揮毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会事務局

錦山天満宮社務所内

電話 〇二一三八三二四六七

FAX 〇二一三八三三三九四

E-mail info@doshinsei.jp